

全国私立大学 FD 連携フォーラム
2011 年度 総会・パネルディスカッション 次第

日 時： 2011 年 7 月 9 日（土）14：00～17：00
会 場： 立命館大学 朱雀キャンパス 1 階 多目的ホール

議事録確認

2010 年度総会（2010 年 6 月 12 日実施）、臨時総会（2010 年 10 月 8 日実施）議事録の確認

2011 年度総会（14：00～15：00）

司会進行： 久保田 哲夫 関西学院大学 高等教育推進センター長

1. 開会挨拶
2. 会場校挨拶 石井 秀則 立命館大学 教学部長
3. 代表幹事校挨拶
安岡 高志 立命館大学教育開発推進機構 教育開発支援センター長、同教授
4. 2010 年度事業報告、2011 年度事業計画について
沖 裕貴 立命館大学教育開発推進機構教授
5. 2011 年度予算について
6. フォーラム企画等における講師依頼について（申し合わせ）
7. 幹事校および代表幹事校の再任について
8. 監査役の任命について
9. 新規入会校（2010 年度総会以降）について
石坂 和幸 立命館大学 教学部次長
10. 関東圏懇談会について（口頭報告）
川上 忠重 法政大学教育開発支援機構 FD 推進センター長
11. 2011 年度に提供する実践的 FD プログラムについて
林 泰子 立命館大学教育開発推進機構講師
12. 閉会挨拶

パネルディスカッション（15：00～17：00）

テーマ：「大学院 FD - 私立大学が目指すこれからの PFF、TAD - 」

コーディネーター：江原 武一 氏（立命館大学 教育開発推進機構）

パネリスト；

- ・佐渡島 紗織 氏（早稲田大学 留学センター）
「大学院生が指導に携わる『早稲田大学アカデミック・ライティング・プログラム』」
- ・岩崎 千晶 氏（関西大学 教育推進部）
「関西大学における TA を活用した授業の動向と TA の育成」
- ・米山 裕 氏（立命館大学 文学部、教学部副部長、教育開発推進機構事務局長）
「博士キャリアパス推進室の設置と取り組み報告」
- ・羽田 貴史 氏（東北大学 高等教育開発推進センター長）
「諸外国における PFF の動向と東北大学の取り組み」

以 上

総会終了後、懇親会（17：30～） 会場：立命館大学 朱雀キャンパス 7 階 TAWAWA

全国私立大学FD連携フォーラム 2011年度総会・パネルディスカッション 出席者

2011年7月9日 開催

	大学名	所属・役職又は職種	氏名(敬称略)
1	東北大学	大学教育支援センター長	羽田 貴史
2	関西大学	化学生命工学部教授・教育開発支援センター長	池田 勝彦
3	"	教育推進部教授	三浦 真琴
4	"	教育推進部助教	岩崎 千晶
5	"	学事局授業支援グループ長	萩原 恒夫
6	"	学事局授業支援グループ職員	川瀬 友太
7	関西学院大学	総合政策学部教授・高等教育推進センター長	久保田 哲夫
8	"	高等教育推進センター副長	西谷 滋人
9	"	高等教育推進センター次長	澤谷 敏行
10	中央大学	学事部企画課長	鈴木 昇
11	同志社大学	教育開発センター事務長	原 真一
12	"	教育開発センター事務室	木村 優里
13	法政大学	教育開発支援機構FD推進センター長	川上 忠重
14	立教大学	大学教育開発・支援センター長 / 理学部長	家城 和夫
15	"	大学教育開発・支援センター	伊藤 直子
16	立命館大学	教学部長	石井 秀則
17		教学部副部長	米山 裕
18	"	理工学部教授	森本 朗裕
19	"	教育開発推進機構教授	江原 武一
20	"	教育開発推進機構教授	安岡 高志
21	"	教育開発推進機構教授	沖 裕貴
22	"	教育開発推進機構教授	林 徳治
23	"	教育開発推進機構教授	鳥居 朋子
24	"	教育開発推進機構講師	林 泰子
25	"	教育開発推進機構講師	宮 浦 崇
26	"	教育開発推進機構講師	岡田 有司
27	"	教育開発推進機構講師	川那部 隆司
28	"	教学部次長	石坂 和幸
29	"	教学部教育開発支援課長	佐々木 浩二
30	"	教学部教育開発支援課長補佐	吉岡 路
31	"	教学部教育開発支援課長補佐	山本 美奈
32	"	教学部教育開発支援課	河合 昭依
33	"	教学部教育開発支援課	上野 若葉
34	"	教学部大学院課	前田 真志
35	"	教学部大学院課	松村 初
36	早稲田大学	教務部FD推進センター所長	本間 敬之
37	"	留学センター 准教授	佐渡島 紗織
38	"	教務部FD推進センター課長	大久保 幸三
39	"	教務部教育システム課	米内 達也
40	"		大熊 恵理子
41	"		友員 彩夏

	大学名	所属・役職又は職種	氏名(敬称略)
42	神奈川県大学	学長室課長	旭 馨
43	"	学部・大学院事務課長	木内由美子
44	北里大学	高等教育開発センター長	鈴木牧彦
45	京都産業大学	教育支援研究開発センター事務室事務長	森 洋
46	國學院大學	教育開発推進機構長、副学長	加藤季夫
47	国士舘大学	文学部教授、(FD委員)	木阪貴行
48	芝浦工業大学	工学部共通学群(数学)教授	榊原暢久
49	"	工学部共通学群(英語)准教授	ホートン広瀬恵美子
50	創価大学	教務第1課長	澤登秀雄
51	帝京大学	高等教育開発センター准教授	井上史子
52	"	高等教育開発センター	日原 誉
53	東京農業大学	学習支援課長	和泉 博
54	"	学習支援課長補佐	山形 一
55	"	学習支援課	清水正樹
56	龍谷大学	大学教育開発センター長	長谷川岳史
57	"	教学企画部課長	河村由紀彦
58	"	教学企画部課	野澤信孝
59	愛知学院大学	教養部	有馬義康
60	大手前大学	現代社会学部教授	野波侑里
61	"	現代社会学部准教授	石毛 弓
62	"	現代社会学部助教	近藤伸彦
63	玉川大学	学士課程教育センター課長	山崎千鶴
64	"	教学部教務課長	高橋正彦
65	阪南大学	教務課大学院係	中上智夫
66	福岡大学	大学院事務課長補佐	里屋博子
67	"	大学院事務課員	原知津子
68	カントリーオフィス	ディレクター	高橋 慶

全国私立大学 FD 連携フォーラム 2010 年度総会 議事録

日 時： 2010 年 6 月 12 日（土）14：00～17：00

会 場： 関西大学 千里山キャンパス 尚文館 1F「マルチメディア AV 大教室」

出席大学：（加盟大学）

青山学院大学、神奈川大学、関西大学、関西学院大学、北里大学、慶應義塾大学、同志社大学、甲南大学、國學院大學、国士舘大学、芝浦工業大学、創価大学、東京農業大学、東北学院大学、中央大学、法政大学、明治大学、名城大学、立教大学、立命館大学、早稲田大学（全 22 大学中 21 大学）

（非加盟大学）

愛知学院大学、大阪産業大学、上智大学、帝京大学、東海大学、南山大学、日本大学（7 大学）

2009 年度総会（2009 年 5 月 16 日実施）議事録の確認

承認。

2010 年度総会

1．開会挨拶

勝山 貴之 同志社大学教育支援機構教育開発センター所長より開会の挨拶があった。

2．代表幹事校挨拶

安岡 高志 立命館大学教育開発推進機構教育開発支援センター長より代表幹事校挨拶があった。

3．2009 年度事業報告、2010 年度事業計画について

代表幹事校より、「2009 年度事業報告」および「2010 年度事業計画」（別紙添付省略）にもとづき 2009 年度事業報告および 2010 年度事業計画について説明があった。設立 3 年目となる 2010 年度については、実践的 FD プログラムの新任教員対象 FD プログラムコンテンツの過年度開発分のフォーラムへ提供すること、SD プログラムと TAD モデルの開発に向けた検討を進めること、教育 GP 終了後のフォーラム運営に向けた幹事校・会員校の連携・協力の強化を行うこと、フォーラムのネットワーク拡大・充実をはかることを方針とし、私学の教育の質を保證する FD 実践への貢献を目指す旨提案があり、これを承認。また、2010 年度秋に臨時総会の開催を予定しており、ここで今後の本フォーラムならびにプログラムの運営方法について諮る旨説明・提案があり、これを承認。

4．2011 年度以降の運営体制ならびに運営費について(案)

代表幹事校より、「2011 年度以降の運営体制ならびに運営費について(案)」（別紙添付省略）にもとづき提案があり、教育 GP 期間が終了する 2011 年度以降の運用に関する本提案は、本総会では提案に留め、各会員校において審議をいただいた上で、2010 年秋開催予定の臨時総会にて承認を得たい旨の説明がなされた。

幹事校・代表幹事校については、2012 年度末までは、現在の幹事・代表幹事校が引き続き務めることとし、2013 年度以降の運営体制は、改めて検討することを提案。

運営費については、2 つに分け、フォーラムは会員校からの年会費により運用し、実践的 FD プログラムは新たな開発や運営については利用料で賄うこととする。また、FD プ

プログラムのオンデマンド講義の事後レポートの添削など、個別に発生する取り組みの経費については、実費による各会員校負担により運営することを提案。

5．幹事校の再任について

代表幹事校より、「幹事校の再任について」(別紙添付省略)にもとづき提案があり、これを承認。

なお、残りの5大学(関西大学、法政大学、早稲田大学、立教大学、立命館大学)については、2011年度の総会で確認することを確認。

6．新規入会校(2009年度総会以降)の紹介について

代表幹事校より、別紙にもとづき提案・報告があった。あわせて、新規に入会した6大学よりそれぞれ自己紹介をいただいた。

7．全国私立大学FD連携フォーラムにおける緒手続きに関する申し合わせ

代表幹事校より、「全国私立大学FD連携フォーラムにおける緒手続きに関する申し合わせ」(別紙添付省略)もとづき、広報への協力ならびに実践的FDプログラムの利用者登録について提案があり、これを承認。

8．2010年度に提供する実践的FDプログラムについて

井上 史子 立命館大学教育開発推進機構講師より、2010年度に提供する実践的FDプログラムについて説明があった。この度開発したオンデマンド講義の紹介とともに、今後のオンデマンド講義の開発にあたっては、ぜひ会員校の皆様から意見をいただきながら進めていきたいとの説明があった。

あわせて、従来、関西・関東でそれぞれ開催していたFDer養成プログラムについて、2010年度は、立命館大学で開催するワークショップにあわせて参加いただくこととし、今後のFDer養成プログラムの運営にあたっては、今後検討していくとの説明があった。

9．会場校挨拶

会場校である関西大学より、市原 靖久 関西大学副学長より挨拶があった。

以上

全国私立大学 FD 連携フォーラム 2010 年度 臨時総会 議事録

日 時 : 2010 年 10 月 8 日 (金) 16 : 20 ~ 17 : 30
会 場 : 立命館大学 東京キャンパス 8F 教室 2
立命館大学 衣笠キャンパス 敬学館 2 階 251 教室
出席大学 : 青山学院大学、神奈川大学、関西大学、関西学院大学、北里大学、京都産業大学、慶應義塾大学、甲南大学、國學院大學、国士館大学、創価大学、帝京大学、東京農業大学、東北学院大学、中央大学、法政大学、明治大学、名城大学、立教大学、立命館大学、早稲田大学 (全 23 大学中 21 大学)

(審議事項)

1 . 2011 年度以降の運営体制ならびに運営費について

代表幹事校より、別紙にもとづき、2011 年度以降の運営体制ならびに運営費について提案があった。運営体制については、2012 年度末までは現在の幹事校・代表幹事校が引き続き勤めることについての提案があり、これを承認。

運営費については、各大学の経費に関わることから、2010 年 6 月の総会にて提案した後、一定の検討期間を設けた。今回、本臨時総会にて再度提案し、これを承認。また、フォーラムの活動内容 (規約第 3 条) のうち、総会・パネルディスカッション等の開催やニュースレターの発行・ホームページの運営などの広報活動に重点化することを確認。

なお、「実践的 FD プログラム」利用料は、会員校、非会員校それぞれについてアカウント数に応じて利用料を徴収することを提案。オンデマンド講義のレポート課題の提出・添削 (1 本あたり 500 円) およびワークショップへの参加については、会員校のみ利用できることを確認。

2 . 規約の改正について

代表幹事校より、別紙にもとづき、「全国私立大学 FD 連携フォーラム」規約について、3 箇所改正を行いたいとの提案があった。

実態にあわせ、第 2 章第 4 条 (会員校) の「中規模以上」の学生数基準を「1 万人以上」から「8 千人以上」へ変更することについて提案があり、これを承認。

第 3 章第 6 条 (総会) の幹事校選出方法について、「総会での互選により選出する」となっていたが、「互選」という言葉が不適切であったため、会員校の中から「総会で選出し、承認する」と修正することについて提案があり、これを承認。

第 3 章第 9 条 (監査役) について、幹事校選出方法同様に「総会で選出し、承認」することについて提案があり、これを承認。

以上 3 箇所の変更・修正について、2010 年 10 月 8 日より施行することを確認。

(報告事項)

・実践的 FD プログラム利用状況について (口頭報告)

井上 立命館大学教育開発推進機構講師より、実践的 FD プログラムの利用状況について口頭にて報告があった。あわせて、実践的 FD プログラムの活用状況について各大学よりそれぞれ報告いただき、情報共有を行った。今後作成予定のオンデマンド講義についての質問もあり、種々意見交換を行った。いただいた意見は今後のオンデマンド講義の開発に活かすこととした。

2011年7月9日 全国私立大学FD連携フォーラム幹事会

2011年7月9日 全国私立大学FD連携フォーラム総会

2010年度事業報告

1. 2010年度 活動概要

総会およびパネルディスカッション

・ 総会・パネルディスカッション

日 時： 2010年6月12日(土) 14:00~17:00

場 所： 関西大学 千里山キャンパス 尚文館

参加者数： 70名

・ 臨時総会

日 時： 2010年10月8日(金) 16:20~17:30

場 所： 立命館大学 東京キャンパス/衣笠キャンパス 敬学館(テレビ会議)

参加者数： 37名

幹事会

・ 第1回

日 時： 2010年6月12日(土) 13:00~14:00

場 所： 関西大学 千里山キャンパス 尚文館

参加大学： 関西大学、関西学院大学、慶應義塾大学、中央大学、同志社大学
法政大学、立教大学、立命館大学、早稲田大学(50音順)

・ 第2回

日 時： 2010年10月8日(金) 15:00~16:00

場 所： 立命館大学 東京キャンパス/衣笠キャンパス 敬学館(テレビ会議)

参加大学： 関西大学、関西学院大学、慶應義塾大学、中央大学、法政大学、明治大学、
立教大学、立命館大学、早稲田大学(50音順)

会員校ミーティング

日 時： 2010年5月19日(水) 16:00~17:30

場 所： 立命館大学 東京キャンパス/衣笠キャンパス 敬学館(テレビ会議)

参加大学： 青山学院大学、神奈川大学、京都産業大学、甲南大学、國學院大学、
国土館大学、芝浦工業大学、創価大学、東京農業大学、北里大学、
立命館大学(50音順)

センター長懇談会

日 時： 2010年10月8日(金) 17:45~19:15

場 所： 立命館大学 東京キャンパス

参加大学： 関西大学、法政大学、明治大学、立命館大学、早稲田大学(50音順)

FD プログラム (WS 開催)

- ・ 分野： 「教育方法論演習 ・ 」
日時： 2010年7月3日(土)13:00~16:45
場所： 立命館大学 衣笠キャンパス 敬学館
- ・ 分野： 「授業設計論演習 ・ ・ 」
日時： 2010年9月20日(月)9:00~16:00 ・ 21日(火)9:00~11:45
場所： 立命館大学 衣笠キャンパス 敬学館
- ・ 分野： 「心理学演習 ・ 」
日時： 2010年11月20日(土)10:00~14:30
場所： 立命館大学 衣笠キャンパス 存心館
- ・ 分野： 「教授学習理論演習 ・ 」
日時： 2011年1月29日(土)13:00~16:30
場所： 立命館大学 びわこ・くさつキャンパス プリズムハウス

実践的 FD プログラムの開発

- ・ オンデマンド講義開発 (8本)
- ・ ワークショップ解説ビデオの作成 (5本)

広報活動

- ・ ホームページ更新：<http://www.fd-forum.org/fd-forum/>
- ・ ニュースレター発行 (2011年3月)
『全国私立大学連携フォーラム(JPFF)News Letter No.2』

2 . 2010 年度 新規加盟校

- ・ 2010年4月 國學院大學
- ・ 2010年5月 創価大学
- ・ 2010年5月 北里大学
- ・ 2010年7月 帝京大学

以上

2011年度 事業計画

1. 2011年度 活動方針

2008年12月に10大学により設立された全国私立大学FD連携フォーラム(以下、フォーラム)は、文部科学省事業「質の高い大学教育推進プログラム」の取組みの一環として開発・展開してきた。加盟校は年々増加し、事業採択期間終了の2011年3月時点で23大学となり、発足当初の2倍以上にまで達している。

事業採択期間が終了し、年会費による運営を開始する2011年度は、総会および企画(パネルディスカッション)の開催、ニュースレターの発行やホームページの更新などの広報活動(2010年10月8日臨時総会にて確認)を通して、これまでの活動の成果を広く社会に発信すること、引き続き加盟校の拡大をはかること、また、加盟校の連携・協力の強化をはかることに努める。

2. 事業計画概要

1) 加盟校の連携・協力の強化

定例会議およびミーティング(総会、幹事会、幹事校ミーティング・会員校ミーティング)を実施する。

上記に加え、地域別、分野別など各種懇談会(例:関東圏懇談会、センター長懇談会、初年次教育交流会、事務局懇談会等)を検討・開催する。

会員校からテーマや企画を募集し、ニーズを踏まえた企画を実施する。

2) 情報発信、情報共有の強化

FD実践の情報共有と意見交換の場(パネルディスカッション)を開催する。

ホームページでの情報公開、ニュースレター等の発行による広報を通して、フォーラムの活動内容の発信、可視化に勤める。

ホームページやメーリングリストを利用し、各大学のFD関連企画の情報共有を行う(加盟校同士の情報共有)。

3) ネットワークの拡大

新規会員校5大学程度の加盟を目標とする。特に、新たな地域での連携の展開を目指す。

4) 立命館大学「実践的FDプログラム」の活用

立命館大学 新任教員対象 実践的FDプログラムについて、ワークショップの年間開催スケジュールを示し、引き続き会員校へ公開する。

オンデマンド講義についても、アカウント数に応じて利用料を設定しつつ、広く公開する。

なお、加盟校については、アカウント数の上限設定を行わず、広く活用いただけるものとする。

3. 年間スケジュール(予定)

- 6月 ・ 幹事校ミーティングの開催
 ・ 関東圏懇談会の開催
- 7月 ・ 幹事会、2011年度 総会・パネルディスカッションの開催
- 9～10月 ・ 幹事校ミーティング・会員校ミーティング
- 3月 ・ 幹事校ミーティング

その他、地域別、分野別など各種懇談会の開催(日程未定)

以上

2011年度 予算 (案)

2010年度予算期間 (2011年4月1日 ~ 2012年3月31日)

< 収入の部 >

単位: 円

科目	10年度予算	備考
年会費	1,200,000	(24大学 × 5万円)
合計	1,200,000	

< 支出の部 >

単位: 円

科目	10年度予算	備考
総会関係経費	300,000	看板、花、設営費、昼食、飲料代 等 総会時 講師謝礼、講師 交通費、パネリスト他懇親会費等
通信費	30,000	案内状等郵送料
委託費	200,000	ホームページ運営・更新費
印刷費	300,000	ニュースレター発行費
ミーティング、各種懇談会関係経費	300,000	
予備費	70,000	
合計	1,200,000	

フォーラム企画等における講師依頼について(申し合わせ)

1. 交通費について

加盟校以外から講師を招く場合は、JPFF 予算から実費を支給とする。

加盟校所属教職員に講師を依頼する場合は、JPFF 予算から支給しない。

* 派遣大学内での対応をお願いする

2. 謝礼について

加盟校以外から講師を招く場合は、JPFF 予算から支払う。

加盟校所属教職員に講師を依頼する場合は、基本的には支払わない。

ただし、講師の職務と異なる依頼内容等の場合(当該大学で FD 推進を主たる職務としない等)、は別途判断し、支払う場合がある。

金額は、30,000 円を基本としつつ、講師の経歴などを勘案し、上限 50,000 円までとする。(いずれも税別)

【表】

	交通費	謝礼
加盟校	「無」	基本「無」 ただし、講師の職務と異なる等の場合は別途判断。
加盟校以外	「有」	「有」

派遣大学との折衝により、JPFF 事務局(代表幹事校)が判断し、直近の幹事会にて報告する。

以 上

2011年7月9日 全国私立大学FD連携フォーラム幹事会
2011年7月9日 全国私立大学FD連携フォーラム総会

幹事校および代表幹事校の再任について

表記の件について、「全国私立大学FD連携フォーラム」規約第3章第8条2に基づき、下記のとおり幹事校・代表幹事校を再任する。

記

- ・ 幹事校：関西大学、法政大学、早稲田大学、立教大学、立命館大学（50音順）
- ・ 代表幹事校：立命館大学
- ・ 任期：2011年4月1日～2013年3月31日（2年間）

以上

【参考】

- ・ 規約 第3章 組織 より抜粋
第8条 本フォーラムに幹事会を置き、代表幹事校および全幹事校で構成する。
2 代表幹事校および幹事校の任期は2年とする。ただし、いずれも再任を妨げない。
- ・ 2009年度第2回幹事会(12月9日実施)議事録より抜粋
4 幹事校の任期について
代表幹事校から、別紙に基づきフォーラムの安定した運営を担保するため、現在の幹事校10大学をそのまま再任（2年間）する方向で総会に諮りたい旨の提案があった。2010年度の総会では、任期が2009年度までとなっている5大学（慶應義塾大学、中央大学、明治大学、同志社大学、関西学院大学）について再任の決議をとることとし、任期が2010年度までとなっている5大学（関西大学、法政大学、早稲田大学、立教大学、立命館大学）については、2011年度の総会で決議をとることを確認し、これを承認。

2011年7月9日 全国私立大学FD連携フォーラム幹事会
2011年7月9日 全国私立大学FD連携フォーラム総会

監査役の任命について

表記の件について、「全国私立大学FD連携フォーラム」規約 第3章 第9条に基づき、下記2大学を監査役として任命する。

記

- ・ 監査役：青山学院大学、関西大学（50音順）
- ・ 任 期：2011年4月1日～2013年3月31日（2年間）

以 上

【参考】

- ・ 規約 第3章 組織 より抜粋
第9条 本フォーラムに監査役2校を置く。
 - 2 監査役は、会員校の中から選出し、総会で承認し、会計を監査する。
 - 3 監査役の任期は、2年とする。

2011年7月9日 全国私立大学FD連携フォーラム幹事会
2011年7月9日 全国私立大学FD連携フォーラム総会

新規入会校（2010年度総会以降）について

1. 帝京大学 : 2010年7月入会
学生数 27,798名（2010年5月1日現在）
総会代表者 土持 ゲーリー 法一 総合教育センター長

2. 龍谷大学 : 2011年6月入会
学生数 19,062名（2010年5月1日現在）
総会代表者 長谷川 岳史 大学教育開発センター長

（入会順）

2011年度に提供する実践的FDプログラムについて

1. 2011年度 オンデマンド講義 申込状況

(1) JPFF 加盟校

15 大学 (立命館大学を含む)

(2) JPFF 非加盟校

24 大学 (学部、研究科、教学機関)

日本大学、園田学園女子大学・園田学園女子大学短期大学部、皇學館大学、
帝塚山大学、阪南大学、大手前大学、福岡女子短期大学、沖縄国際大学、
愛知産業大学、長崎国際大学、玉川大学、文教大学、工学院大学、
公立大学法人 滋賀県立大学、公立大学法人 北九州市立大学、小樽商科大学、
相模女子大学・相模女子大学短期大学部、大同大学 授業開発センター、
学校法人 女子美術大学、大阪工業大学、東邦大学、奈良文化女子短期大学、
徳島大学大学院バイオサイエンス研究部、西南学院大学

(申込順)

2. 利用方法

(加盟大学 利用申込時のアンケートより抜粋)

- ・ 新任教員向け研修
- ・ 一般教員向け研修
- ・ FD 担当者研修
- ・ 教職員対象研修
- ・ 自主学習教材
- ・ 学内教職員へのサービス提供のため (FD 推進)

2. 2011年度ワークショップ開催スケジュール(予定)

立命館大学 新任教員対象 実践的FDプログラムのワークショップは、JPFF 会員校の皆様にも公開しています。具体的な日程・会場などについては、開催の1-2ヶ月前にJPFFのホームページ(「実践的FDプログラム」受講ガイドブックのページ)にてご連絡します。

	講座名・テーマ	到達目標	日程・会場 (予定)
1	「教育方法論演習」 良い授業のための留意点 話し言葉に着目して～図形並べ	自分の指示すべき情報が、どの程度、口頭で的確に伝達されるかを体験する(知識) フィードバック(質問,聞き直し)がある場合とない場合で、どの程度口頭による指示の伝達が異なるかを体験する(知識) 教員が得意とする言語情報(verbal communication)の限界を体験する(知識,技能)	2011年 7月16日(土) 立命館大学 びわこ・くさつ キャンパス
2	「教育方法論演習」 良い授業のための留意点 非言語・視覚情報の応用～無言面接	自分の表情,アイコンタクト,態度が他人に与える印象を知る(知識) 状況に応じて自分が相手に好印象を与える表情,態度,アイコンタクトを演じることができる(技能)	
3	「心理学演習」 聴き手に求められる力	聴き手の姿勢や態度が話し手の話す意欲に影響することに気づく(技能) 話す意欲を高める/損なう要因を知る(技能)	2011年 8月6日(土)
4	「授業設計論演習」 シラバスと授業の到達目標の書き方	シラバスと授業の到達目標を観点別に行動目標で表現できる(技能)	2011年 9月19日(月)
5	「授業設計論演習」 強制連結法による授業設計	強制連結法を用いて授業を設計することができる(技能)	2011年 9月19日(月)
6	「授業設計論演習」 マイクロティーチングと評価	強制連結法を用いて設計した授業を実施,相互評価することができる(技能) 公開授業等において,授業評価を行う際に求められる観点を知り,適切な評価を行うことができる(技能,態度)	2011年 9月20日(火)
7	「心理学演習」 受容的に聴く力 ～犬・バラ法	犬,バラ法を用い,「あいづち」や「相手の言葉を繰り返す」技術を身に付ける(技能) 相手の話の背景にある意見や気持ちを思い浮かべることができる(技能)	2011年 11月12日 (土)
8	「心理学演習」 アサーション・トレーニング	自分の指示や指導の仕方の特徴を知る(技能) 自分の気持ちも相手の気持ちも大切にしたい指示,指導ができる(技能)	2011年 11月12日(土)
9	「教授学習理論演習」 アクティブ・ラーニングの方法と実践～ピア・サポーターの活用を中心に	ピア・サポーターを活用したアクティブ・ラーニングの方法を修得し,実践することができる(技能) 各自が実践しているアクティブ・ラーニングの交流を通して,自らの授業を省察できる(態度)	2012年 1月28日(土)
10	「教授学習理論演習」 アクティブ・ラーニングの方法と実践～ICTの活用を中心に	ICTを活用したアクティブ・ラーニングの方法を修得し,実践することができる(技能) 各自が実践しているアクティブ・ラーニングの交流を通して,自らの授業を省察できる(態度)	2012年 1月28日(土)

JPFFのHP 「実践的FDプログラム」受講ガイドブックのページ
http://www.fd-forum.org/fd-forum/html/practice_program.html